令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	上田市
施設名	上田市交流文化芸術センター（サントミューゼ）
内定額	3,652　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型(公演・人材・普及)が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
普-01	アーティスト・イン・レジデンス「芸術家ふれあい事業」(音楽)	令和7年7月1日～令和8年2月7日	上田市内小学校他
普-02	サントミューゼ・マチネ　シリーズ	令和7年4月10日～令和8年2月26日	上田市交流文化芸術センター 小ホール
普-03	「守田慎之介」による　高校生と創る「実験的演劇工房R」《アーティスト・イン・レジデンス「芸術家ふれあい事業」(演劇)》	令和7年12月3日～12月14日	上田市交流文化芸術センター 大スタジオ
普-04	「内藤裕敬さんとプロジェクト」《アーティスト・イン・レジデンス「芸術家ふれあい事業」(演劇)》	令和7年7月19日～令和8年2月21日	上田市交流文化芸術センター 大スタジオ他

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	18	18	14
	公演事業	11	10	7
	（内、本助成対象事業本数）	9	0	0
	人材養成事業	2	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	3	0
	普及啓発事業	5	5	4
	（内、本助成対象事業本数）	5	5	4
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	790	848	857
	ホール名：大ホール　座席数：1,530席	260	283	286
	ホール名：小ホール　座席数：372席	265	280	284
	ホール名：大スタジオ　座席数：最大100席	265	285	287
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	22,271	16,961	13,779
	公演事業	12,026	7,925	5,677
	人材養成事業	163	558	231
	普及啓発事業	4,516	4,062	4,049
	共生社会事業			
	その他　内容：	5,566	4,416	3,822
	貸館事業入場者・参加者数	135,000	56,535	123,115
	その他　内容：記入してください			
	計	157,271	73,496	136,894
開館日数		308	309	307
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		308	309	307
施設の利用日数		171	191	179
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		55.5%	61.8%	58.3%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	9	25	12,026	3	5		1			
	共催・提携公演（※2）	2	5	5,566		1					1
	貸館公演	170	350	135,000	5	141	23	1			
	計	181	380	152,592							
令和6年度	主催公演（※1）	10	18	7,925	3	4	2	1			
	共催・提携公演（※2）	3	3	4,416		3					
	貸館公演	168	212	65,320	5	143	18	2			
	計	181	233	77,661							
令和7年度	主催公演（※1）	9	22	7,307	2	5	2				
	共催・提携公演（※2）	8	14	15,722	2	4	1				1
	貸館公演	292	312	123,115	6	118	31	6	3		128
	計	309	348	146,144							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	上田市
施設名	上田市交流文化芸術センター（サントミューゼ）
内定額	3,652　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業			
人材養成事業			

普及啓発事業	・「芸術家ふれあい事業（音楽）」における、受入れ先教職員と参加児童の反応（アンケート）及び、レジデントアーティストの劇場制作スタッフ（音楽担当）に対する満足度（ヒアリング調査）。	・教職員と参加児童のアンケートで「また実施してもらいたい」との回答が 75%以上。 ・レジデントアーティストに対するヒアリングで、劇場の制作能力について概ね高い評価の聞き取り結果を得る。	・「また実施してもらいたい」との回答は 98%。 ・「安心して滞在活動ができる」「音楽の本質的な魅力を大切にしてくれる」「新たなアイディアを提供してくれる」とのヒアリング結果を得ている。
	・「サントミューゼ・マチネ」の来場者数及び、来場者の反応（アンケート）並びに、企画内容に対する来場者の反応（アンケート）。	・来場者数前年度比 3%増 ・公演の満足度「大変満足している」「まあ満足している」の回答があわせて 75%以上 ・来場理由「企画内容が面白そうだから」「上田市交流文化芸術センターが企画したコンサートだから」の回答割合が合わせて 50%以上	・来場者前年比 11.6%の大幅増 ・公演の満足度「大変満足している」「まあ満足している」の回答があわせて 81% ・来場理由「企画内容が面白そうだから」「上田市交流文化芸術センターが企画したコンサートだから」の回答割合が合わせて 57%
	・「実験的演劇工房」における、高校生参加者の反応（アンケート）及び、演出家（守田慎之介）の劇場舞台スタッフに対する満足度（ヒアリング調査）。	・「また参加したい」の回答が 75%以上。 ・演出家に対するヒアリングで、劇場舞台スタッフの対応力について概ね高い評価の聞き取り結果をを得る。	・「また参加したい」の回答が 82%以上。 ・「円滑に進行できるよう先回りをして準備してくれる」「舞台スタッフの経験値が高い」などの評価を得る。
	・「芸術家ふれあい事業（演劇）」における、市民参加者の反応（アンケート）及び、レジデントアーティスト（内藤裕敬）の劇場制作スタッフ（演劇担当）に対する満足度（ヒアリング調査）。	・「また参加したい」の回答が 75%以上。 ・レジデントアーティストに対するヒアリングで、劇場の制作能力について概ね高い評価の聞き取り結果を得る。	・「また参加したい」の回答が 87%。 ・「適度な距離感でやりたいことを実現させてくれる」「市民や団体との関係性やネットワークが既に構築されているため、創作活動に取り掛かる土壌が耕されていると感じる」との聞き取り結果を得ている。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	

人材養成事業	
自己評価	

普及啓発事業	
自己評価	本年度は、各事業において設定した目標値を上回る成果を得た。特に「芸術家ふれあい事業」では、受入れ側からの継続希望が 98%に達し、12 年間の取り組みで地域における文化的インフラとしての役割が確立されている。アーティストからは、当館の制作能力が「音楽の本質を大切にしている」「土壌が耕されている」と評され、スタッフが地域と芸術を繋ぐコーディネーターとしての役割も果たしていることが示された。 「サントミューゼ・マチネ」では前年比 11.6%増の動員を記録し、来場理由の 57%が企画内容や劇場ブランドへの信頼であったことは、市民の鑑賞行動の定着を物語っている。また、演出家から「先回りした準備」と高く評された舞台スタッフの専門性は、高校生等の次世代が安心して表現に挑める創造的環境を支えている。 総じて、当館が単なる施設提供に留まらず、高度な専門性と地域ネットワークを駆使し、地域の創造拠点として中核的役割を果たしたと自己評価する。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
・レジデントアーティストによるアウトリーチ活動の実施数	・延べ 50 件	・延べ 51 回
・アウトリーチ先からリサイタルへの誘導実績（アンケート）	・全体で 10 件	・アンケートから確認できたのは 3 件。その他会話等からは 10 件以上。
・「新進演奏家リサイタル」出演者の満足度（ヒアリング）	・ヒアリングで概ね好評価を得る。	・「今後コンサートを主催する上での様々なノウハウを吸収できた」とのコメントを得ている。
・「新進演奏家リサイタル」のメディア露出度	・パブリシティによるメディア掲載 4 件以上	・掲載メディア 4 件
・レジデントカンパニー（マームとジプシー）の地域資源への関心度に関するインタビュー調査	・インタビューで概ね好評価を得る。	・上田の地域資源を作品に盛り込む形で滞在制作ができた。
・長野大学の集中講座参加者数	・前年度比 5%増	・前年度比 1%増
・貸館利用率	・前年度（平均 65%）を維持する。	・58.3%で前年度より減少している
・貸館事業の利用者満足度（ヒアリング）	・ヒアリングで概ね好評価を得る。	・設備に対する満足度は高いものの、申込方法に対しては意見が多かった。

（※4）・（※5）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	地域の文化拠点として、レジデントアーティストによるアウトリーチを目標超の 51 回実施し、地域資源を作品に反映した滞在制作を行うなど、独自性の高い事業を展開した。新進演奏家の育成面では「主催ノウハウを吸収できた」との高評を得、メディア掲載 4 件と合わせ、拠点としての発信力を示した。 一方、アウトリーチからリサイタルへの誘導は数値上 3 件（会話等では 10 件超）に留まり、長野大学との連携講座も前年比 1%増と、目標の 5%には届かなかった。また貸館面では設備満足度は高いものの、申込方法に改善を求める声があった。今後は、数値化の精度向上と広報・利用システムの最適化を図り、より地域ニーズに即した拠点機能の深化を目指したい。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・若年層の利用者数(U25 チケット販売数)	・前年度比 3%増	・前年度比 5%増
・多世代の参加を促す事業数と子育て世代の利用者数(親子チケット販売数)	・3 事業実施、各公演における親子チケット販売比率 3%増	・3 事業実施、親子チケット販売比率は増加無し。(2%減)
・音楽事業におけるアウトリーチ事業の参加者数	・小学校 24 校での参加者数は前年度同程度、公民館及び定住自立圏でのコンサート来場者数は前年度比 3%増	・小学校 24 校での参加者数は R6 が 1,289 名、R7 が 1,286 名で同程度、公民館及び定住自立圏でのコンサート来場者数は前年度比 3%減
・市内高校生を対象とする「実験的演劇工房」の参加者数	・前年度比 3%増	・前年度と同数の参加者数

（※3）・（※4）…R7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	U25 チケット販売数が前年比 5%増を記録し、若年層のアクセシビリティ向上に成果を上げた。一方、親子チケット販売比率や地域公演の来場者数は目標に届かなかったが、これは他行事との重複や天候不良が影響したと分析している。学校アウトリーチや高校生対象の演劇工房では前年並みの規模を維持し、次世代への機会提供を継続した。今後は、親子向け企画の実施時期の再検討や広報戦略の強化を図る。障がいの有無や居住地、環境に左右されず、誰もが芸術に触れられる開かれた劇場運営を一層推進する。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※2）
	・ ・ ・

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
本年度、アウトリーチ事業が単なる「鑑賞」を超え、市民の主体的な行動変容を促した象徴的な事例があった。小学校での「クラスコンサート」を体験した児童が、それまで音楽に無関心だったにもかかわらず強い感銘を受け、自ら保護者に懇願して翌日の公民館公演へ来場したケースである。保護者からは「息子に手を引かれてここまで来た」との声が寄せられ、学校での芸術体験が家庭を動かし、地域の文化施設へと足を運ぶ「能動的な鑑賞者」を創出した好事例となった。 また、高校生対象の「実験的演劇工房」では、学校の枠を超えた「共創」と「キャリア観の形成」に確かな手応えを得た。参加生徒から「他校との繋がりの中で共に作品を創り上げる喜びを知った」という声に加え、「劇場の大人（プロのスタッフ）と深く関わることで、将来の職業についても考えることができた」との感想が寄せられた。これは、劇場が単なる発表の場に留まらず、専門的な知見を持つ大人との交流を通じ、若者の自己形成やキャリア選択を支える「サードプレイス」として機能していることを示している。大きな変化は急に起こらないが、こうした「個の変容」を丁寧に積み重ねることが、地域の中核劇場としての価値であると考えている。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	企業の支援を促す「サントミューゼパートナーズ」の拡充が順調に進んでいる。	
目標(値)（※2）	前年度比5%の協賛社増。	
実績(値)	令和6年度が36社だった支援が、令和7年度には50社となり、38%増となった。	
団体の自己評価		

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）		
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	音楽・演劇・ダンスの専門人材が配されているが、将来に向けて若年層の人員増が求められる。	
目標(値)（※2）	来年度に向け、専門人材 1 名の確保を目指す。	
実績(値)	令和 8 年度から他館等での経験がある専門人員を 2 名採用した。	
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	管理職比率は 30%を下回るが今年度から女性が館長を務めている。	管理職比率は 30%を下回るが今年度から女性が館長を務めている。
目標(値)（※2）	不足している年齢層の専門人材 1 名の確保を目指す。	
実績(値)	不足していた 30 代の専門人員を 2 名採用した。	女性管理職については館長の 1 名のみ。
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	市が整備する制度に則り、推進している。	各種研修制度が充実しているため、積極的に職員が参加している。
目標(値)（※2）	職員のスキルアップとともに業務分担の見直しをはかる。	
実績(値)	職員の育児・介護等の両立にための支援制度は市が整備しており、実際に 1 名が育児休業を取得中である。	情報セキュリティ研修、マイナンバー研修に参加した。
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	各種研修制度が充実しているため、積極的に職員が参加している。	文書法規係があるため、適正な契約業務を行っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント研修に職員が参加した。	適正な契約業務を遂行した。
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
開館から 12 年、継続実施してきた普及啓発活動が、地域に根付いてきたことを実感する一年となった。アウトリーチへの高い継続希望や、マチネ公演の動員増、そして劇場が企画する事業に対して信頼して来場する方々の増加は、一歩ずつ着実に進んできた歩みの成果ではないかと考える。アウトリーチでの音楽室での体験をきっかけに、家族で足を運んだ児童や、プロの演出家や劇場の制作スタッフ、舞台スタッフなどの「大人」との交流から、将来を見つめた高校生の姿は、活動が個人の意識にまで深く届いていることを示している。 一方で、子育て世代へのアプローチや、地域公演の集客、また貸館の申込方法などの施設運営に関する部分で、改善すべき点も多い。これらの声に真摯に向き合い、より使いやすく親しまれる劇場へと工夫を重ねていく必要がある。運営面では、地域の企業からのご支援や専門スタッフの増員など、将来に向けた基盤づくりも進んだが、組織の持続可能性の観点からも、課題として継続的に対応していくことが必要である。 今後は、これまで培ってきた普及啓発における企画制作のノウハウを活かし、大ホールでの公演への誘導にも力を入れていきたい。公演事業、普及啓発事業、人材養成事業の三つの事業が互いに良い影響を与え合うような構成を目指し、誰もが置かれた環境に左右されずに芸術を楽しめる場所として、地域と共に歩む文化拠点の形を追求していく。

備考